

日本労働年鑑 第58集 1988年版
The Labour Year Book of Japan 1988

第四部 労働組合と政治・社会運動

III 政党の動向

2 選挙

2 中間地方選挙

知事選——保守・中道対共産の対決パターン

八七年のあいだに、統一地方選挙以外では、知事選は愛媛、山梨(以上一月)、青森、愛知、熊本、石川(以上二月)、宮崎(七月)、和歌山(一〇月)、高知(一一月)の九県で行われた。このうち、前副知事が初当選した愛媛を除いて、いずれも現職が再選(愛知、熊本)、三選(山梨、宮崎)、四選(和歌山)、あるいは七選(石川)された。

推薦・支持政党別にみると、自民党公認が四県、自・公・民推薦が三県、自・社・公・民推薦が二県となっている。対決パターンとしては保守または保守・中道対共産の形が一般化しており、共産党はすべてのケースで対立候補を立てているが、社会党は保守・中道との相乗りや候補を立てないケースがめだっている。投票率は全体として低迷しており、三県では過去最低を記録した(第90表参照)。

市長選——圧倒的に無所属、社・共連合姿消す

八七年中に実施された市長選は、統一地方選中に実施されたものを除くと、北九州市・広島市・大阪市の三政令指定都市をふくむ一〇四であった。当選者の所属党派は圧倒的に無所属であり、党公認は自民の二(青森県三沢市、山形県米沢市)だけであった。

市長選の連合パターンは、第91表にみるとおりだが、無所属のうち支持・推薦をうけた市長の党派別の内訳をみると、一番多いのが、保守・中道型の二八であり、次いで保守・中道・革新の相乗り型の二〇、保守(自民単独推薦)型の一〇、中道・革新型の七、中道型の三の順となっている。

政党の組み合わせとしては、自・公・民連合型が一五で最も多く、その次が自・社・公・民連合型で一四、自・公型七、自・民型四となっている。社・共連合型はまったく姿を消し、これに公・民が加わったパターンが二つ(新潟県新潟市、大阪府枚方市)あるだけとなっている。

なお、無投票は二六で、全体の約二五%にのぼった。

日本労働年鑑 第58集 1988年版

発行 1988年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

****年**月**日公開開始

